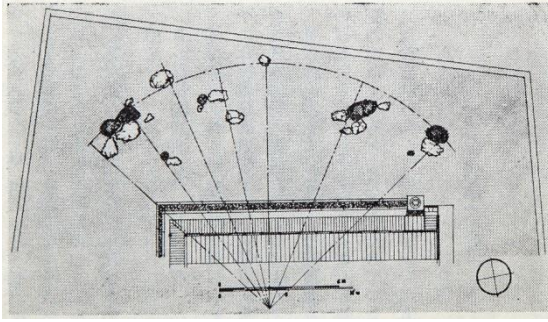


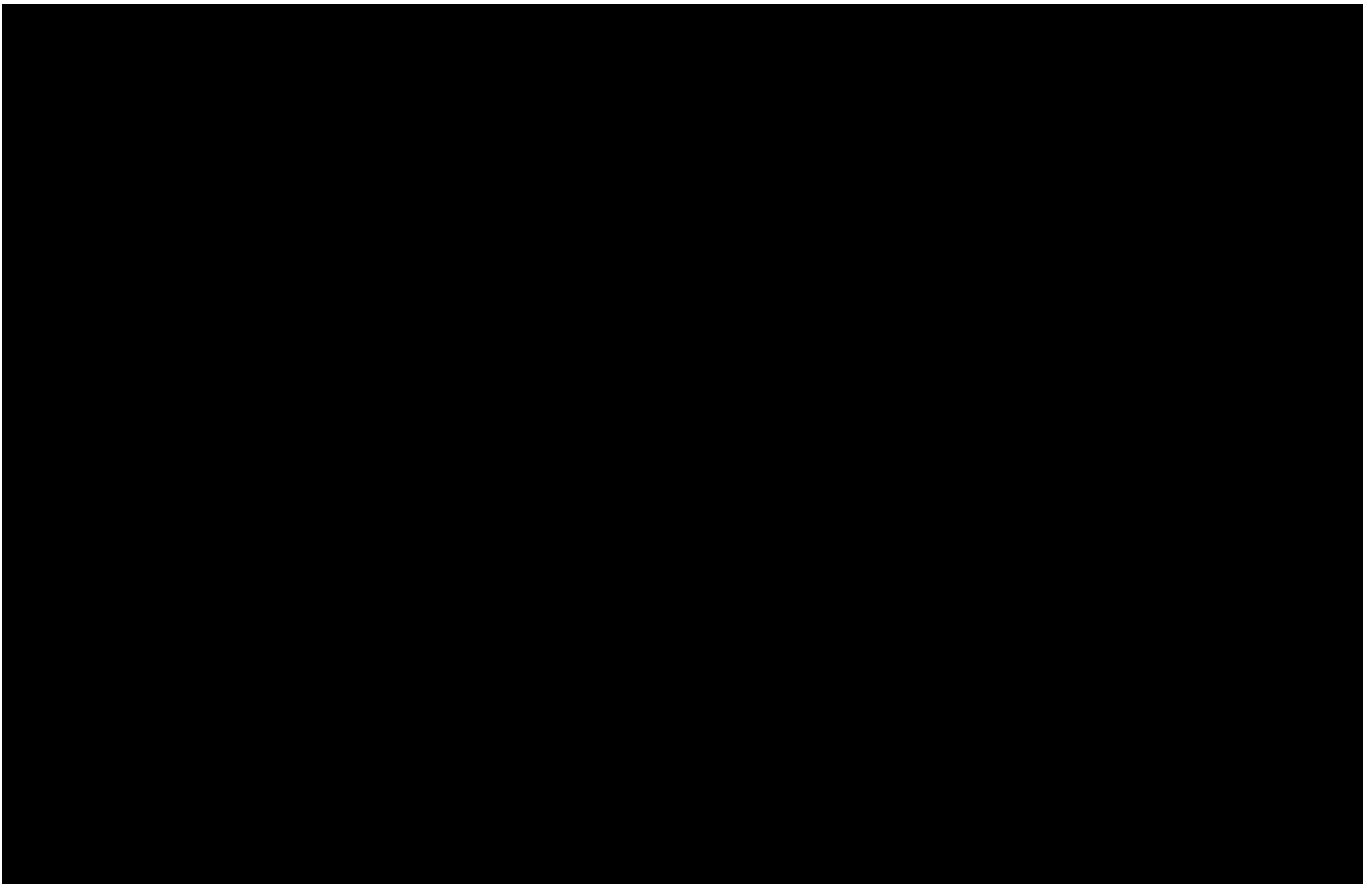
41 Zakke-in Temple Kyoto City Ukyoku hanazono myoshinji



当院は1592年に朝鮮役の時、牧村表部太夫が朝鮮にて客死したので、家臣が和尚に請うて開山した庭である。この方丈南庭に庭を作ることには龍安寺式の様式で当時としては珍しいことであったと思う。作者の玉淵は日蓮宗の僧であるが、桂離宮、円通寺、普門寺、地藏院などの庭も作っている。龍安寺式の平庭式枯山水を得意としていたらしく、意図的に抽象庭園に挑戦していたことは、左に示した見取り図を見れば明らかである

雑華院見取り図：大山平四郎著『龍安寺石庭』212P

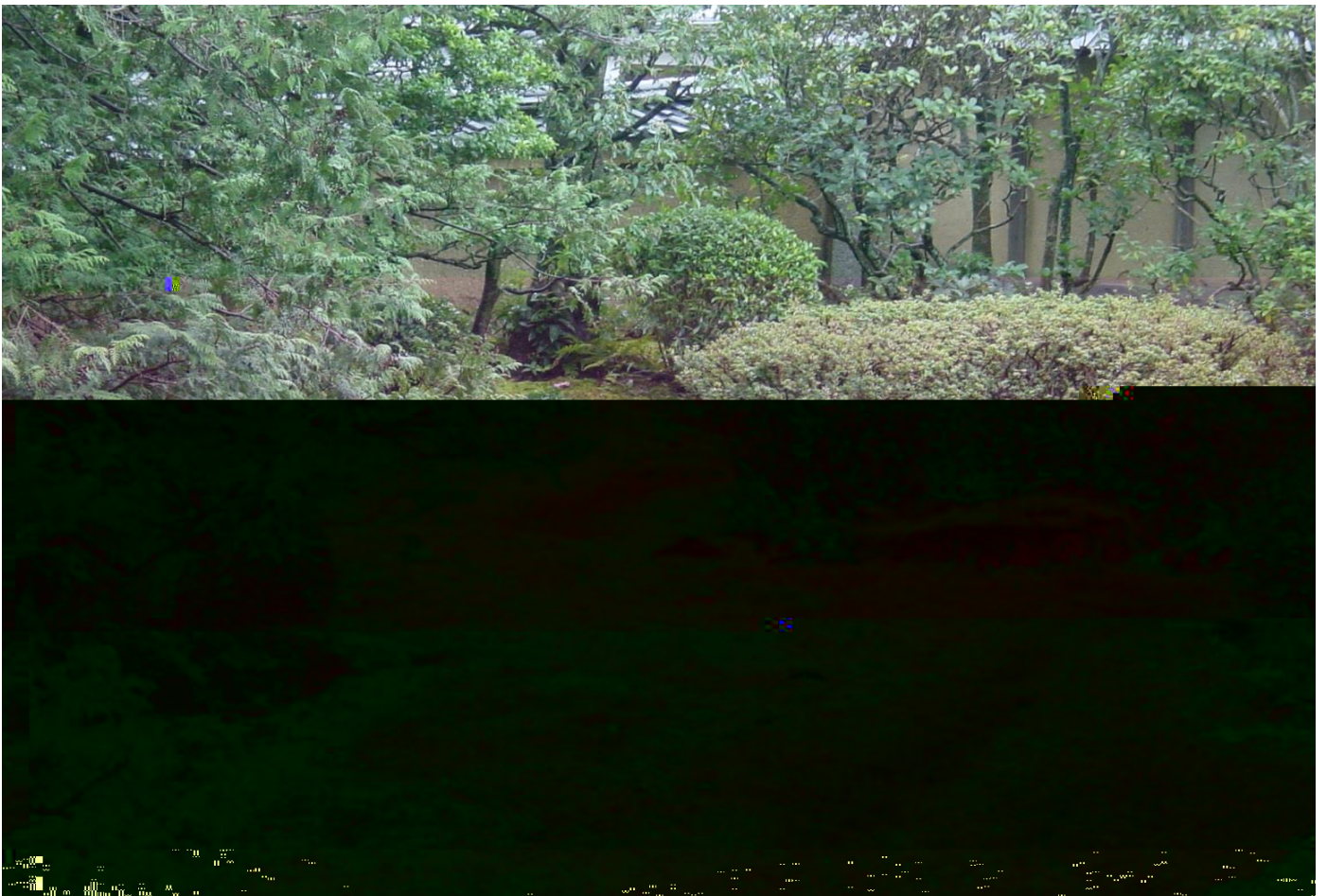
雑華院：現在は苔地に大木が茂っているが、以前は龍安寺のような、砂地に15石の枯山水庭園であった。玉淵は双ヶ岡を借景として龍安寺型の分散配石の抽象庭園を作った。



『都林泉名勝図会』の**雑華院**：数少ない龍安寺型の庭であるから、是非とも本来の姿に復元を願う



积迦を象徴か



坐禅石か